



さんかく21・Anjo



P.4 里町空手道クラブの練習の様子



多様性 ～認め合い、共に生きる～

会長 山崎 嘉代子

“多様性”、最近よく耳にする言葉です。辞書で調べてみると、「いろいろ異なるさま、異なるものの多いさま」とあります。私たちは一人ひとり、みんな違います。同じものを見たり聞いたりしても、その感じ方は人それぞれです。また自然のなかには、様々な色・形が存在しています。そう考えると私たちの生きる世界は多様性にあふれている、ということに気が付きました。気付く、というよりは改めて認識したといった方がいいかもしれません。私たちは、いつからか“同じ”を優先し“違う”ことの良さを見失っていた気がします。これからはみんなの違いを認め合い、“当たり前”や“らしさ”という言葉の思い込みにとらわれることなく、だれもが選択の幅を広げていくことができる社会が大切だと思います。

目次

- * 安城市内小中学校への
スポーツとジェンダーに
関するアンケート ……P2、3
- * オリンピアン中野弘幸先生から
のメッセージ ……P3
- * 里町空手道クラブに
突撃インタビュー ……P4
- * 男女共同参画週間イベント開催 …P4

挟み込み

- * 女性とオリンピックの歩み
～そして多様性へ～

安城市内の 小中学校へ アンケートを 実施しました。

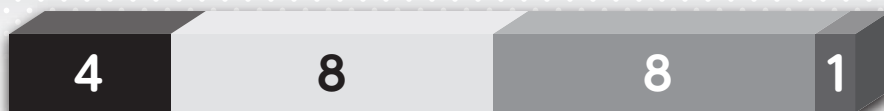
市内小中学校にスポーツとジェンダーに関するアンケートを実施し、21校から回答がありました。

*男子・女子は、生物学的性別の意味になります。
ジェンダーとは、社会的・文化的に形成された性別のことを示します。

■ … とても感じる □ … やや感じる ▒ … 感じる ■ … 感じない

Q1

男子と女子を同等に扱うのが難しいと感じるか。



Q2

男子と女子では、スポーツに関する意欲や向上心またはリーダーシップに違いを感じるか。



Q3

スポーツにおいて、男子と女子では、差をつけないといけない場面があると感じるか。



Q4

どのような場面で差をつけないといけないと感じているか。

- 柔道や剣道など力の差が出る競技。
- 陸上競技や水泳など、タイムを計るとき目標設定。
- 水泳で、高学年になると男女をペアにして行くと抵抗感を示す子どもがいるので、配慮が必要。
- 体格に差が出てくると、男子にはもの足りなく、女子には難しいことが多くなる。



Q5

部活において、男子と女子と一緒に指導する時に、女子だから男子だからと配慮や指導の仕方が異なるか。

- 着替える場所や身体接触がある場合は、男女で分けて活動している。
- 女子生徒への体調面への配慮(生理など)。
- 男女の特性を考えて行う。勝負の勝ち負けの結果や、その過程のどれを大切に考えているかなどを考慮して声掛けを行うべきと考える。

Q6

今までにLGBTに関して、本人や家族から相談やカミングアウトをされたことはあるか。

いいえ … 15

はい … 6

**Q7**

LGBT の子どもに対して、どのような配慮が必要か。

- 水泳の授業では、露出の少ない水着を選択できるようにし、更衣時は個室使用できるようにする。
- トイレは、他の子どもと違う時間に行けるように対応したい。
- その子どもと保護者がどのような配慮を必要としているかを聞き取り、支援したい。

Q8

学校教育現場でのスポーツとジェンダー平等には、どのような問題があり、何か取り組みをしていることはあるか。

- どこまで男女一緒にスポーツを行った方がいいのか、分けた方がいいのか、その見極めに課題を感じる。
- 高学年になるにつれ男女間の体格差や能力差が広がり、子どもたちの中で異性に遠慮し、のびのびと活動できない場面がでてくること。
- いじめへの進展が懸念されるため、LGBTに関する基礎知識を示し、適切な知識や認識をもって対応することが必要。

★アンケートを
実施して…

スポーツにおいて男子と女子とでは、意欲や向上心に違いを感じないが、男女一緒に行うことへの難しさがあり、指導を変えたり配慮したりすることが必要とされている実情が伺えました。今後はLGBT当事者への配慮や支援も必要であり、スポーツとジェンダー平等の課題に向き合っている先生の姿がみえてきました。

オリンピック

中野弘幸先生からのメッセージ

(篠目中学校に勤務している2012年ロンドンオリンピック陸上選手の中野先生にインタビューしました)

自分にとって、楽しめることを続けることが大切だと思う。周りの目を気にしたり、得意なことを隠したりする必要はない。続けることが大切。小学生の頃から私は、父から「続けることで力が付く。」と繰り返し言われ、夜でも走る練習に取り組んだ。

オリンピックとして、スポーツに関して子どもたちへ一番伝えたいことは？

世界のトップレベルの選手は、子どもの時からその種目だけをやっているのではなく、色々な種目をやる中で多方面から力を伸ばしている。それに対して、日本は一つの種目のみで、多種目を経験する機会が少ないと言われている。

将来的に部活動はなくなり、外部団体によるクラブチームに生徒が自由に入ることになると考えられる。勝利至上主義ではなく、その子の可能性に合った指導をするチームが増えてほしいと思う。豊かなスポーツライフの実現に向けて色々な種目を経験し、将来的には競技スポーツでも生涯スポーツでも、楽しんで続けていけるとよいと思う。

スポーツにおける日本の将来像はどのように考えられますか？

体育の授業で「勝ち負け」にこだわりすぎることは、ジェンダー不平等の原因の一つになっていると思う。

これからの体育やスポーツでは、障がい者も含め「差別ではなく配慮する」ことが一層大切になるだろう。例えば、小学校体育のボール運動では、全員が楽しめるように用具の工夫をすることが配慮になる。分けるのではなく、平等に楽しめるような配慮をすることが、ジェンダー平等につながっていくと思う。

スポーツにおけるジェンダー平等とは、どのように考えますか？

里町空手道クラブに突撃インタビュー

指導者：可児 武先生(高棚小)

男女一緒にのスポーツクラブ指導者に、どのように活動しているのかを聞いてみました。

- ★男子も女子も一緒に練習をしています。指導上、女子の体に触れる時は不快感を与えないように気をつけています。
- ★小学生までは男女の力の差はそれほどありません。性別に関係なく素直で集中力の高い子は早く上達します。
- ★空手道を通して、自分自身に自信を持ちたいと思い入会する女の子もいます。



男女を問わず、子どもから大人まで一緒に練習に励む姿が見られました。

令和3年度男女共同参画週間イベント オンライン講演会

スポーツをジェンダーの視点でみてみよう を開催しました。

6月26日(土) 10:00~11:30

Zoom Live配信

講師 藤山 新氏 (東京都立大学ダイバーシティ推進室特任研究員)

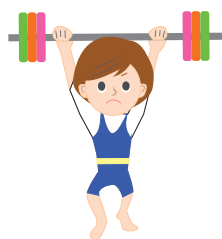


トランスジェンダー当事者について「体が深く関わるだけに、ジェンダーに関する課題や不平等がまだまだ存在するが、これまでスポーツの世界は変わってきた。多くの人が関心を持ち、声を上げれば世界は変わる」という言葉が心に残りました。

スポーツ界におけるジェンダーの話だけでなく、ジェンダー問題への関わり方、考え方などを見せていただき、非常に勉強になった。

参加者の声

男性ホルモンで、性別の参加資格を判断するのは不自然な気がします。



スポーツは力を競うので男性の要素が強かったということが分かりました。スポーツを取材するメディアも男性が多いのでそのような視点が入っていることに、自分自身が疑問を持っていなかったことに気がきました。

先生の話ぶりがとってもフレンドリーで素敵でした。

とても分かりやすく聴くことができました。出かけてなくてもよいので、ゆったりした気持ちで聞いたことが良かったと思います。



●「さんかく21・安城」とは●

男女共同参画社会の実現をめざす市民グループのネットワークの会です。

(令和3年5月1日現在のグループ一覧・順不同)

安希の会／安城国際交流友の会／安城市食育健康づくりの会
安城市更生保護女性会／安城市消費生活学校
刈谷・知立・安城おやこ劇場／グリーンそう
国際交流安城はなのき会／ボランティアネット北明治の会
やはぎ会安城支部／NPO法人安城まちなの学校／NPO法人ing
NPO法人育て上げネット中部虹の会
NPO法人チャンネルDaichi
指定生活介護事業所ぬくもりの家／ウイメンズネット安城
日本デンマークネサンス推進機構
NPO法人あんじょう地域ねこの会
安城市民やろmyプログラム実行隊
19団体 個人会員24名

編集 後記

オリンピック開催年という事もあり、スポーツに目を向けてテーマを考えました。まだコロナ禍が続く中、リモート会議中心の編集委員会でしたが、回数を重ねしっかりと内容を練ることができました。

33号編集委員

筒木麻三子・安仲嘉輝・小鹿登美
近藤富子・山本典子

企画・編集：さんかく21・安城
発行：安城市

問い合わせ 安城市役所市民生活部市民協働課

〒446-8501 愛知県安城市桜町18-23

Tel (0566) 71-2218(ダイヤルイン) Fax (0566) 72-3741